

羽生水郷公園で確認された湿地性昆虫類(コウチュウ目・カメムシ目)

内田大貴 (㈱環境指標生物・埼玉県立自然の博物館外部研究者)・岩田泰幸 (公益財団法人文化財虫菌害研究所・埼玉県立自然の博物館外部研究者)・荒井康充 (さいたま水族館)

はじめに

羽生水郷公園は、埼玉県北東部の羽生市に位置し、国指定天然記念物の宝蔵寺沼ムジナモ自生地(文化庁, [online](#))を含む県営公園である。「環境省レッドリスト2020」(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, [online](#))において絶滅危惧IA類に選定されているムジナモ *Aldrovanda vesiculosa* の研究観察のための理想的な人工池を持つ施設を設置することを目的に造成が計画され、1981年6月に水を主体とした公園として供用が開始された(三田ヶ谷地区地域史発掘事業実行委員会, 2020)。2006年には園内の羽生市与兵衛新田地内に三田ヶ谷池が(埼玉県, 2006)、2009年には羽生市三田ヶ谷地内に水路の供用が開始され(埼玉県, 2009)、2018年までに現在の53.6ha全域の供用が開始されている(埼玉県, 2018)。

1981年以降、羽生水郷公園内における公表されている調査データでは、「宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査報告書」(羽生市教育委員会, 2015)において水生動物やプランクトン、昆虫類調査などの結果が示されているのみである。

著者らは、2024年の夏季に羽生水郷公園内の複数水域で調査を実施したところ、環境省と埼玉県選定の絶滅危惧種およびこれまで当地で確認記録のない種を含む湿地性コウチュウ目およびカメムシ目昆虫(以下、湿地性昆虫類と記す)の生息を確認した。本研究では前記調査での確認種について、当地における採集記録を確認状況とともに報告する。

方 法 調査地概要

調査は羽生水郷公園内の三田ヶ谷池(図1A)、宝蔵寺沼(図1B)、ビオトープ(図1C)、かたらいの丘水たまり(図1D)、さいたま水族館庭池(図1E)の計5箇所にて実施した。三田ヶ谷池は水源が2つあり、1つはさいたま水族館敷地内に設置された井戸ポンプで、水族館で飼育水として利用した水が流入している。2つ目は羽生水郷公園北側に位置する利根川水系の用水路から流入している。2つの流入路は常時通水してはおら

ず、三田ヶ谷池や周辺用水路の水位により流入量が管理されている。水域にはガガブタ *Nymphoides indica* や ヒ シ *Trapa jeholensis* 等の浮葉植物やヨシ *Phragmites communis* 等の抽水植物が多く自生している。宝蔵寺沼の水源は水族館からの流入のみで、こちらも人為的に流入量を調整している。植生はヨシが多く自生している。ビオトープは雨水を水源としており、三田ヶ谷池や近隣用水路からの流入はないが、通年湛水状態を保っており、ヨシやガマ *Typha latifolia* などの抽水植物が自生している。かたらいの丘水溜まりは降雨による一時的にできた水域である。さいたま水族館庭池は上水を溜めたプール状の水域である。



図1. 羽生水郷公園内の調査水域(A, 羽生水郷公園内の三田ヶ谷池; B, 宝蔵寺沼; C, ビオトープ; D, かたらいの丘水たまり; E, さいたま水族館庭池)

調査方法

採集は2024年7月から9月に計16回、1人及び3人で手網(目合い1mmと0.4mm)を用いた掬い取りにより実施した。なお、さいたま水族館庭池のみ、上水を溜めたプールにて、夜間営業時に一時的に設置したLED灯への飛来個体を採集した。本調査は公園指定管理者の許可を得て実施しており、一般来園

者の採集は固く禁じられている。採集個体はその場で濃度70%エタノール水溶液または、酢酸エチルにて固定後に持ち帰り、種同定後に乾燥標本を作製した。種の同定は林ほか（1984）、Nakane & Matsui（1986）、Jäch & Diaz（1999）、森・北山（2002）、林（2004）、林（2008）、矢崎・石田（2008）、Lee & Ahn（2016）、新田・吉富（2012）、林・宮本（2018）、中島ほか（2020）に従った。検視標本の一部は埼玉県立自然の博物館昆虫標本資料（SMNH-In）として保管している。

結 果

調査の結果、羽生水郷公園内において36種の湿地性昆虫類が確認された。下記には標本データをそれぞれ示した。なお、採集場所はすべて「埼玉県羽生市三田ヶ谷」のため標本データ内からこの記述は省略した。備考には「埼玉県レッドデータブック動物編2018」（埼玉県，2018）ならびに「環境省レッドリスト2020」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，online）掲載種の選定ランクや、採集時の状況等を簡易的に記した。

コウチュウ目 Coleoptera

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus*

標本：2 個体、2024年 9 月15日、荒井康充採集（内 1 個体、SMNH-In-48545）

備考：宝蔵寺沼にて採集された。県内では2000年代以降の記録は少なかったが、最近記録が増えつつある（吉越ほか，1998；さいたま市，2021；内田・岩田，2022；古旗ほか，2023b；高野・内田，2024）。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

サメハダマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus stridulus

標本：1 雄、2024年 9 月16日、遠藤巧都採集（SMNH-In-48546、図 2 A）

備考：宝蔵寺沼にて採集された。埼玉県内では亀澤・渡部（2018）で春日部市でのみ記録されている稀種。

チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus*

標本：3 個体、2024年 7 月28日、岩田泰幸採集；2 個体、2024年 8 月 9 日、荒井康充採集（内 1 個体、SMNH-In-48547）

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。7 月のものは、キチン化の弱い未成熟個体であった。林ほか（2015）では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県

内でも広く確認されている（斉藤，1978；吉越ほか，1998；さいたま市，2021；内田・古旗，2023；古旗ほか，2023a,c など）。

ホソセスジゲンゴロウ

Copelatus weymarni

標本：1 雄、2024年 9 月 8 日、荒井康充採集（SMNH-In-48548）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内でも広く記録されている（斉藤，1978；吉越ほか，1998；古旗ほか，2023b,c；内田ほか，2024b など）。

ハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus*

標本：13雄 8 雌、2024年 7 月28日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 雌、SMNH-In-48549）

備考：ビオトープにて採集された。多数泳ぎ回る姿が見られた。県内の低地や都市部の水域では、しばしば多数が見られる（岩田，2004）。県内でも広く記録されている（吉越ほか，1998；岩田，2004など）。

コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus*

標本：1 個体、2024年 9 月 8 日、荒井康充採集（SMNH-In-48550）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。県内では広く記録されている（吉越ほか，1998；岩田，2004；内田・古旗，2023；古旗ほか，2023a,b,c など）。

ダルマガムシ科 Hydraenidae

ミヤタケダルマガムシ *Hydraena miyatakei*

標本：1 雌、2024年 7 月28日、内田大貴採集；1 個体、2024年 7 月28日、岩田泰幸採集；1 雄、2024年 7 月29日、荒井康充採集（SMNH-In-48551、図 2 B）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。埼玉県内では横瀬町と嵐山町でのみ記録されている稀種（岩田・岩田，2018；内田・岩田，2022）。

ガムシ科 Hydrophilidae

タマガムシ *Amphiops mater*

標本：2 個体、2024年 9 月15日、荒井康充採集（内 1 個体、SMNH-In-48552）

備考：宝蔵寺沼にて採集された。県内ではさいたま市、桶川市、寄居町、長瀬町、秩父市（吉越ほか，1998）で記録され、林ほか（2015）では過去にも宝蔵寺沼で記録がある。近年の県内記録は限られる。

ゴマフガムシ *Berosus punctipennis*

標本：1 雌、2024年 7 月28日、内田大貴採集 (SMNH-In-48553)；1 個 体、2024年 8 月12日、荒井康充採集

備考：ビオトープ、さいたま水族館庭池にて採集された。林ほか (2015) では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内でも広く記録されている (吉越ほか, 1998 ; 高野・内田, 2024 ; 内田ほか, 2024b など)。

トゲバゴマフガムシ *B. lewisius*

標本：1 雄、2024年 7 月28日、内田大貴採集 (SMNH-In-48554)；5 雄 5 雌、2024年 8 月12日、荒井康充採集

備考：ビオトープ、さいたま水族館庭池にて採集された。県内でも広く記録されている (斉藤, 1978 ; 吉越ほか, 1998 ; さいたま市, 2021 ; 古旗ほか, 2023a,b,c など)。

マメガムシ *Regimbartia attenuata*

標本：7 個体、2024年 7 月28日、内田大貴・岩田泰幸採集 (内 1 個体、SMNH-In-48555)

備考：ビオトープにて採集された。1 個体は腹面が赤褐色の未成熟個体であった。県内では2000年代以降の記録は少なかったが、最近記録が増えつつある (吉越ほか, 1998 ; 新井, 2005 ; さいたま市, 2021 ; 内田・岩田, 2022 ; 古旗ほか, 2023a,b)。

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes*

標本：3 個体、2024年 7 月28日、内田大貴・岩田泰幸採集 (内 1 個体、SMNH-In-48556)

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。林ほか (2015) では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内でも広く記録されている (斉藤, 1978 ; 吉越ほか, 1998 ; 古旗ほか, 2023b など)。

コガムシ *Hydrochara affinis*

標本：1 個体、2024年 9 月16日、遠藤巧都採集 (SMNH-In-48557)

備考：情報不足【DD】(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020)。かたらの丘水たまりにて採集された。県内でも広く記録されている (斉藤, 1978 ; 吉越ほか, 1998 ; 新井, 2005 ; 新井ほか, 2016 ; さいたま市, 2021 ; 内田・古旗, 2023 ; 古旗ほか, 2023a,b,c など)。

チビヒラタガムシ *Enochrus esuriens*

標本：2 雄 3 雌、2024年 9 月 7 日、荒井康充採集 (内 1 個体 SMNH-In-48558、図 2 C)；

1 雌、2024年 9 月 8 日、荒井康充採集

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。埼玉県内での記録は少なく、北本市、小鹿野町、嵐山町、幸手市でのみ記録されている稀種 (吉越ほか, 1998 ; 内田・岩田, 2022 ; 高野・内田, 2024)。

キイロヒラタガムシ *E. simulans*

標本：1 雌、2024年 7 月28日、内田大貴採集 (SMNH-In-48559)；4 個 体、2024年 9 月 8 日、荒井康充採集

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。林ほか (2015) では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内では広く記録されている (斉藤, 1978 ; 吉越ほか, 1998 ; さいたま市, 2021 ; 古旗ほか, 2023a,b,c など)。

キベリヒラタガムシ *E. japonicus*

標本：1 雌、2024年 7 月28日、岩田泰幸採集

備考：三田ヶ谷池で採集された。県内では広く記録されている (吉越ほか, 1998 ; 岩田・児嶋, 2023など)。

セマルガムシ *Coelostoma stultum*

標本：1 雄 4 雌、2024年 7 月28日、内田大貴・岩田泰幸採集；2 雄、2024年 9 月 8 日、遠藤巧都採集 (内 1 個体、SMNH-In-48560)

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか (2015) では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内では広く記録されている (吉越ほか, 1998など)。

ヒメセマルガムシ *C. orbiculare*

標本：3 雄 2 雌、2024年 9 月13日、遠藤巧都採集 (内 1 個体、SMNH-In-48561)

備考：宝蔵寺沼にて採集された。秩父市、熊谷市、蓮田市、さいたま市、寄居町で記録されているが (斉藤, 1978 ; 吉越ほか, 1998 ; さいたま市, 2021)、最近の記録は日高市、飯能市、所沢市 (古旗ほか, 2023b ; 岩田・児嶋, 2023) のみと少ない。

ハムシ科 Chrysomelidae

イネネクイハムシ

Donacia (Cyphogaster) provostii

標本：6 雄 1 雌 個 体、2024年 7 月28日、内田大貴・岩田泰幸採集 (内 1 雄、SMNH-In-48562、図 2 D)

備考：準絶滅危惧 1 型【NT1】(埼玉県, 2018)。三田ヶ谷池にて採集された。林ほか (2015) では過去に調査地に隣接する宝蔵寺

沼でも記録がある。県内では古い記録が多いものの、ほとんどの産地で現在は生息が確認されておらず、宝蔵寺沼のほかに滑川町山田（新井ほか，2016）などが残る程度となっている（埼玉県，2018）。

ジュンサイハムシ

Galerucella nipponensis

標本：1 個体、2024 年 8 月 9 日、遠藤巧都採集（SMNH-In-48563）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。県内ではさいたま市や北本市、熊谷市で記録されているのみと（吉越ほか，1998）、記録は多くない。ヒシ群落のある水域に生息するため、県内の生息地は減少傾向と推察される。

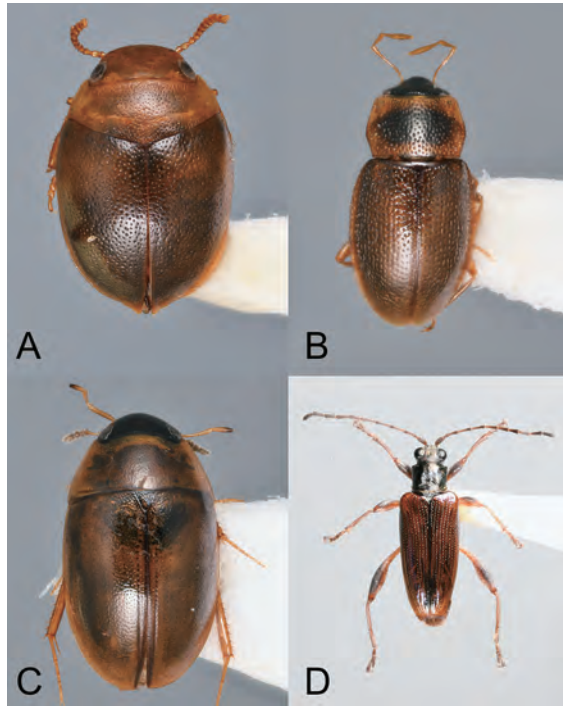


図 2. 採集された特筆すべきコウチュウ目
(A, サメハダマルケシゲンゴロウ, SMNH-48546 ;
B, ミヤタケダルマガムシ, SMNH-48551 ; C, チビヒ
ラタガムシ, SMNH-48558 ; D, イネネクイハムシ,
SMNH-48562)

カメムシ目 Hemiptera

タイコウチ科 Nepidae

ミズカマキリ *Ranatra chinensis*

標本：1 個体、2024 年 9 月 12 日、荒井康充採集（SMNH-In-48564）

備考：ビオトープにて採集された。県内でも広く記録されている（林，1998；野澤，2005；岩田・安岡，2005；さいたま市，2021；古旗ほか，2023a など）。

ヒメミズカマキリ *R. unicolor*

標本：1 個体、2024 年 9 月 8 日、遠藤巧都採集（SMNH-In-48565、図 3 A）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。埼玉県内では 2000 年代以降の記録は少ない稀種で、標本を伴う本記録は貴重である。

ミズムシ科 Corixidae

エサキコミズムシ *Sigara septemlineata*

標本：2 雄、2024 年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 個体、SMNH-In-48566）

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。県内でも広く記録されている（林，1998；古旗ほか，2023a,b,c など）。

ハラグロコミズムシ *S. nigroventralis*

標本：7 雄、2024 年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 個体 SMNH-In-48567）

備考：ビオトープ・三田ヶ谷池にて採集された。県内でも広く記録されている（林，1998；岩田ほか，2023；高野・内田，2024 など）。

マツモムシ科 Notonectidae

マツモムシ *Notonecta triguttata*

採集後再放出：1 個体、2024 年 7 月 28 日、岩田泰幸採集

備考：三田ヶ谷池で捕獲したが、再放したため標本はない。県内でも広く記録されている（林，1998；岩田・安岡，2005；古旗ほか，2023b など）。

コマツモムシ *Anisops ogasawarensis*

標本：4 個体、2024 年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 個体、SMNH-In-48568）

備考：ビオトープおよび三田ヶ谷池にて採集された。県内でも広く記録されている（林，1998；田悟，2006 など）。

ミズカメムシ科 Mesoveliidae

ムモンミズカメムシ *Mesovelia miyamotoi*

標本：9 雄 5 雌、2024 年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 雄 1 雌、SMNH-In-48569–48570、図 3 B）

備考：準絶滅危惧 1 型【NT1】（埼玉県環境部みどり自然課編，2018）。三田ヶ谷池にて採集された。県内では、大宮台地から低山帯にかけての浮葉植物の多い場所に局在している（林，1998；岩田，2012；埼玉県，2018；さいたま市，2021）。

ケシミズカメムシ科 Hebridae

ケシミズカメムシ *Hebrus nipponicus*

標本：4 個体、2024年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 個体、SMNH-In-48571）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。県内でも広く記録されている（林, 1998；古旗ほか, 2023a；内田ほか, 2024c など）。

イトアメンボ科 Hydrometridae

ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera*

標本：1 雄、2024年 9 月 8 日、遠藤巧都採集（SMNH-In-48572）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）では過去にも宝蔵寺沼で記録がある。県内でも広く記録されている（林, 1998 など）。

カタビロアメンボ科 Veliidae

ケシカタビロアメンボ *Microvelia douglasi*

標本：2 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴採集；3 雌、2024年 8 月 9 日、荒井康充採集；5 雌、2024年 8 月 18 日、荒井康充採集（内 1 個体、SMNH-In-48573）

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。県内でも広く記録されている（林, 1998；古旗ほか, 2023a など）。

マダラケシカタビロアメンボ

M. reticulata

標本：8 雄 23 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集；18 雄 17 雌、2024年 8 月 9 日、荒井康充採集（内 1 雄 1 雌、SMNH-In-48574-48575、図 3 C）

備考：準絶滅危惧 1 型【NT1】（埼玉県, 2018）。三田ヶ谷池にて採集された。県内ではさいたま市、戸田市、秩父市、桶川市でのみ記録されている稀種（林, 1998；さいたま市, 2021；内田ほか, 2024a）。

ホルバートケシカタビロアメンボ

M. horvathi

標本：7 雄 13 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴採集；8 雄 5 雌、2024年 8 月 18 日、荒井康充採集（内 1 雄、SMNH-In-48576）

備考：ビオトープ、三田ヶ谷池にて採集された。一般的に各地で普通で個体数も多いとされるが（中島ほか, 2020）、県内の確実な記録は久喜市、鳩山町、川口市、飯能市、幸手市、松伏町のみと少ない（林, 1998；田悟, 2020b；古旗ほか, 2023b, c；高野・内田, 2024；内田ほか, 2024b）。

アメンボ科 Gerridae

エサキアメンボ *Limnopus esakii*

標本：7 雄 13 雌 1 幼虫、2024年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 雄 1 雌、SMNH-In-48577-48578、図 3 D）

備考：準絶滅危惧（NT）（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室）、準絶滅危惧 2 型【NT2】（埼玉県, 2018）。三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼で記録がある。県内では 90 年代を中心に多く記録されているが（林・碓井, 1990）、最近の記録は秩父市や加須市、幸手市のみと少ない（林, 1998；岩田・岩田, 2010；奥田・川村, 2020；さいたま市, 2021；高野・内田, 2024）。

アメンボ *Aquarius paludum paludum*

標本：7 雄 13 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴採集（内 1 雄、SMNH-In-48579）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）では過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼でも記録がある。県内でも広く記録されている（林, 1998；田悟, 2004, 2006, 2020a；さいたま市, 2021；高野・内田, 2024；内田ほか, 2024c など）。

ヒメアメンボ *Gerris latiaabdominis*

標本：7 雄 14 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 雄 1 雌、SMNH-In-48580, 48883）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。林ほか（2015）でも過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼で記録がある。県内でも広く記録されている（林, 1998；田悟, 2006；さいたま市, 2021；古旗ほか, 2023a；内田ほか, 2024c など）。

ハネナシアメンボ *G. nepalensis*

標本：3 雄 2 雌、2024年 7 月 28 日、内田大貴・岩田泰幸採集（内 1 雄 1 雌、SMNH-In-48581-48582、図 3 E）

備考：三田ヶ谷池にて採集された。幼虫含めて遊泳する個体が多数確認された。林ほか（2015）でも過去に調査地に隣接する宝蔵寺沼で記録がある。最新版のレッドデータブックでは「生息地が県内各地で発見され、個体数も多いことが判明した。」とされているが（埼玉県, 2018）、現状 1990 年代の記録が多くみられるのみで（林・碓井, 1990；林, 1998）、標本を伴う近年の確実な記録は、林ほか（2015）以外に確認できないことから、県内では稀と考えられる。

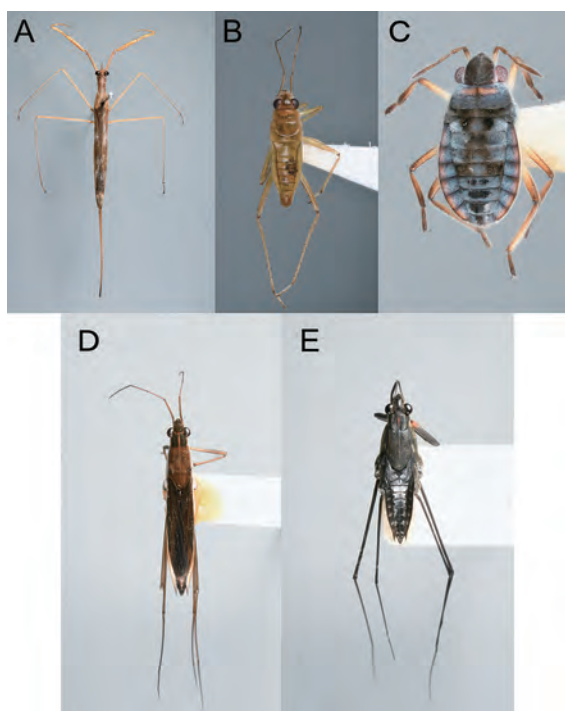


図3. 採集された特筆すべきカメムシ目
(A, ヒメミズカマキリ, SMNH-48565; B, ムモンミズカメムシ (雄), SMNH-48569; C, マダラケシカタビロアメンボ (雌), SMNH-48575; D, エサキアメンボ (雌), SMNH-48578; E, ハネナシアメンボ (雌), SMNH-48582)

まとめ

羽生水郷公園は、公園内の大部分を占める三田ヶ谷池と宝蔵寺沼に浮葉植物と抽水植物が多く生育していることで、サメハダマルケシゲンゴロウやマダラケシカタビロアメンボ、エサキアメンボなど、水生植物が豊富かつ水量の安定した止水環境を好む種（中島ほか, 2020）が生息している。また、三田ヶ谷池では、イネネクイハムシやジュンサイハムシ、タマガムシ、ヒメミズカマキリ、ムモンミズカメムシ、ハネナシアメンボといった水量が多く、浮葉植物帯がよく発達した水域を好む種（林, 2012; 中島ほか, 2020）が複数確認されている。一方、セマルガムシやチビヒラタガムシなどの浅い水域を好む種も岸際のエコトーンで得られており、当該エリアに様々なタイプの水域環境が複合的に存在していることで、湿地性昆虫の種多様性が高く維持されていることが明らかとなった。

埼玉県内の採集記録が少ないサメハダマルケシゲンゴロウやミヤタケダルマガムシなどの複数種、「埼玉県レッドデータブック動物編2018」（埼玉県, 2018）ならびに「環境省レッドリスト2020」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, online）掲載種も確認されていることから、県内の特に東部に

おける貴重な湿地性昆虫類の重要な生息地の一つであり、引き続き環境の維持管理と保全が求められる場所である。

一方、オオクチバス *Micropterus nigricans* やブルーギル *Lepomis macrochirus*、アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* といった侵略的な外来生物が大部分の水域に侵入が確認されている（内田大貴・荒井康充・岩田泰幸, 未発表データ）。このため、現状では水生昆虫を餌生物とする天敵が侵入しにくい水生植物帯の群生箇所に生息可能な小型の水生昆虫を除き、生息が難しい状況にあると考えられる。また、この水生植物帯の減少や消失は、小型種の水生昆虫も含めて天敵の捕食圧にさらされる機会が増えると考えられる。以上の点から、特に植物帯の維持管理については各種の生態的特徴を考慮した上で考えていくことが大切であろう。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり、羽生市の矢辺徹氏には羽生水郷公園、三田ヶ谷池の成り立ちについて情報を提供していただいた。また、さいたま水族館の遠藤巧都氏には採集調査にご協力いただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 新井浩二 (2005) 嵐山町の甲虫類. 嵐山町博物館調査報告 10 : 117-183.
- 新井浩二, 岩田朋文, 岩田泰幸, 亀澤 洋 (2016) 埼玉県の希少な甲虫類の記録. 寄せ蛾記 160 : 15-30.
- 文化庁 (Online) 宝蔵寺沼ムジナモ自生地. <https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/main/details/401/610> (2024年9月18日閲覧)
- 古旗峻一, 内田大貴, 村橋卓也 (2023a) 小川町の水田で採集された絶滅危惧種を含む水生甲虫目及び半翅目. 埼玉県立自然の博物館研究報告 17 : 127-134.
- 古旗峻一, 内田大貴, 村橋卓也, 岩田泰幸 (2023b) 日高市及び飯能市で採集された水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記 189 : 24-31.
- 古旗峻一, 内田大貴, 岩田泰幸 (2023c) 鳩山町で確認された水生コウチュウ目・カメムシ目の記録. 寄せ蛾記 188 : 51-53.
- 羽生市教育委員会 (2015) 宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査報告書. 羽生市教育委員会.
- 林 匡夫, 木元新作, 森本 桂 (1984) 原色日本甲虫図鑑. 保育社.
- 林 成多 (2004) 日本産ネクイハムシ亜科の

- 絵解き検索による同定. ホシザキグリーン財団研究報告 7 : 127-136.
- 林 成多 (2008) 日本産セマルガムシ属の同定と分布. ホシザキグリーン財団研究報告 11 : 93-102.
- 林 成多 (2012) 日本のネクイハムシ. むし社.
- 林 正美 (1998) 埼玉県半翅類 - 異翅目および同翅目頸吻亜目. 埼玉県昆虫誌 I. pp. 147-234. 埼玉昆虫談話会.
- 林 正美, 宮本正一 (2018) 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三編, 日本産水生昆虫科・属・種への検索 第二版. pp. 329-427. 東海大学出版会.
- 林 正美, 碓井 徹 (1990) 埼玉県におけるアメンボ4種の記録. *Rostria* 40 : 657-661.
- 林 正美, 碓井 徹, 新井浩二, 川島一誠 (2015) 8. 昆虫類. 宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査報告書. pp. 97-112. 羽生市教育委員会.
- 岩田朋文 (2012) 埼玉県におけるミズカメムシ科の追加記録と既知記録整理. 寄せ蛾記 145 : 1-8.
- 岩田朋文, 岩田泰幸 (2010) 埼玉県秩父地方(県西部)におけるエサキアメンボの採集例. 寄せ蛾記 137 : 1-3.
- 岩田泰幸 (2004) 近郊見聞録〜2004年・関東甲信越におけるゲンゴロウ生息状況調査に関する中間報告〜. 寄せ蛾記 115 : 77-80.
- 岩田泰幸, 岩田朋文 (2018) 埼玉県から初記録となるミヤタケダルマガムシとミジンダルマガムシ一付・埼玉県から記録のあるダルマガムシ科のリストー. 埼玉県立川の博物館紀要 18 : 21-24.
- 岩田泰幸, 児嶋 翼 (2023) 2019年〜2021年に埼玉県所沢市三ヶ島の湿地で得られた水生甲虫. トトロのふるさと基金自然環境調査報告 17 : 36-45.
- 岩田泰幸, 安岡竜太 (2005) 埼玉, 神奈川におけるコオイムシ, オオコオイムシ分布資料. 寄せ蛾記 116 : 25-26.
- 岩田泰幸, 内田大貴, 加藤敦史, 碓井 徹 (2023) 埼玉県におけるミゾナシミズムシの追加記録. 埼玉県立自然の博物館研究報告 17 : 105-108.
- Jäch, M. A., and Diaz J. A. (1999) The genus *Hydraena* Kugelann, 1794 (Insecta: Coleoptera: Hydraenidae) in the Ryukyu Archipelago (Nansei-shoto), Japan. *Annalen des Naturhistorischen Museums in Wien, Serie B* 101: 201-215.
- 亀澤 洋, 渡部晃平 (2018) 埼玉県からのサメハダマルケシゲンゴロウの記録とマルケシゲンゴロウの記録抹消. 寄せ蛾記 170 : 39-40.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (Online) 環境省レッドリスト2020. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>. (2024年9月18日閲覧).
- Lee, D.-H., and Ahn K.-J. (2016) A taxonomic review of *Enochrus* Thomson (Coleoptera: Hydrophilidae) in Korea. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity* 9: 335-343.
- 三田ヶ谷地区地域史発掘事業実行委員会 (2020) 三田ヶ谷の地誌. 自費出版.
- 森 正人, 北山 昭 (2002) 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版.
- 中島 淳, 林 成多, 石田和男, 北野 忠, 吉富博之 (2020) ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版.
- Nakane, T., and Matsui, E. (1986) A new species of the genus *Enochrus* Thomson from Japan, with a key to the species of the genus in Japan (Insecta, Coleoptera, Hydrophilidae). *The Journal of Law and Economics, Ohyodo Gakuen* 2: 78-84.
- 新田涼平, 吉富博之 (2012) 日本産ゴマフガムシ属 *Berosus* (コウチュウ目, ガムシ科) の分類学的再検討. さやばねニューシリーズ 7 : 18-31.
- 野澤雅美 (2005) 嵐山町の半翅類. 嵐山町博物誌調査報告 10 : 98-116.
- 奥田恭介, 川村 敦 (2020) 加須市におけるエサキアメンボの採集記録. 寄せ蛾記 179 : 38.
- 埼玉県 (2006) 埼玉県報 号外第19号. pp. 23-24. 関東図書株式会社.
- 埼玉県 (2009) 埼玉県報 第2062号. 関東図書株式会社.
- 埼玉県 (Online) 埼玉県告示第335号. https://www.pref.saitama.lg.jp/kenpou/bn/H30_03/0330_t2989/item/8491/t2989_20180330i8491.pdf. (2024年9月3日閲覧).
- 埼玉県 (2018) 埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第4版). 埼玉県環境部みどり自然課.
- さいたま市 (2021) さいたま市史 自然編〜昆虫類〜.
- 斉藤良夫 (1978) 埼玉県の甲虫. 埼玉県動物誌. pp. 213-258.
- 田悟敏弘 (2004) ナミアメンボの越冬の観察

- 例. 寄せ蛾記 115 : 44-46.
- 田悟敏弘 (2006) 埼玉県三郷市及び隣接するエリアにおける異翅目, 同翅目 (頸吻亜目) の記録ー 1 ー. 寄せ蛾記 122 : 21-38.
- 田悟敏弘 (2020a) 川口市昆虫リスト -II- カメムシ目 [2014~2018]. 寄せ蛾記 175 : 30-42.
- 田悟敏弘 (2020b) 川口市昆虫リスト -VI- 2019年追加種と訂正 2 件. 寄せ蛾記 177 : 56-68.
- 高野季樹, 内田大貴 (2024) 2023年に幸手市で採集した水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記 191 : 64-67.
- 内田大貴, 古旗峻一, 岩田泰幸 (2024a) 桶川市で採集されたマダラケシカタビロアメンボの記録. 寄せ蛾記 192 : 191-192.
- 内田大貴, 古旗峻一, 高野季樹 (2024b) 2023年に松伏町で確認した水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記 191 : 10-12.
- 内田大貴, 古旗峻一 (2023) 白岡市の水田で確認された水生甲虫 5 種の記録. 寄せ蛾記 187 : 63-64.
- 内田大貴, 岩田泰幸 (2022) 嵐山町の水田で確認した絶滅危惧種を含む真水生コウチュウ目の生息状況と既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告 16 : 77-84.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 高野季樹, 内山龍人 (2024c) 鳩山町における水生コウチュウ目・カメムシ目の追加記録ー付 鳩山町の水生コウチュウ・カメムシ目リストー. 寄せ蛾記 192 : 67-69.
- 矢崎充彦, 石田和男 (2008) 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶 60 : 165-200.
- 吉越 肇, 小田 博, 竹内崇夫, 西山 明, 小堀文彦, 長畑直和, 牧林 功 (1998) 埼玉県の鞘翅目 (甲虫類). 埼玉県昆虫誌Ⅲ. pp. 93-340. 埼玉昆虫談話会.